平成２１年１０月２９日（木）　室蘭民報　掲載
（第３種郵便物認可）

幸清会初開催の２認知症研修会

きめ細かい内容 受講者から好評

洞爺湖

洞爺湖町の社会福祉法人幸清会（大久保幸積理事長）が町内川東の高齢者ケア研修センター・財田の杜で10月から初めて取り組んでいる「認知症介護実践研修」と「認知症対応型サービス事業管理者研修」が好評だ。胆振管内中心に介護現場で働く各地のスタッフが受講し、レベルを高めている。同法人によると、民間による開催は道内でも珍しいという。（小林正律）

認知症への理解を深めてもらおう―と幸清会が初めて開催した研修会

「実践」「管理者」専門性高める

研修会は、認知症に対する基本的な知識や技術を身に付ける「実践」と、施設長クラスの人材を育てる「管理者」の2種類。通常は道や札幌市が主催して札幌中心に開催している。このため、「胆振地域の福祉サービスをより向上させたい」と幸清会が道に要望し、開催の許可を得て実現した。

10月1日から始まり、27日に終了した「実践」には53人、11月中旬まで開催の「管理者」には20人が受講。それぞれ、認知症高齢者とのコミュニケーション方法や支援策といった基礎を学習。「管理者」はさらに職員の労務管理や人材育成について理解を深めており、きめ細かい研修内容が受講者から好評だ。

幸清会の大久保有慶事務局長は「この機会を通じて専門性を高め、現場で生かしてほしい」と成果に期待している。